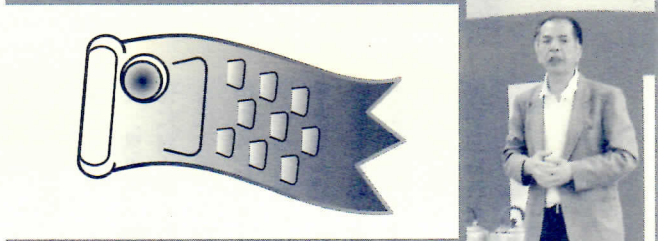
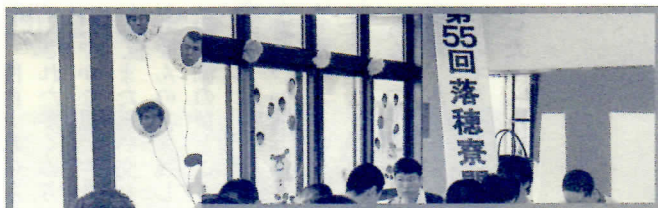
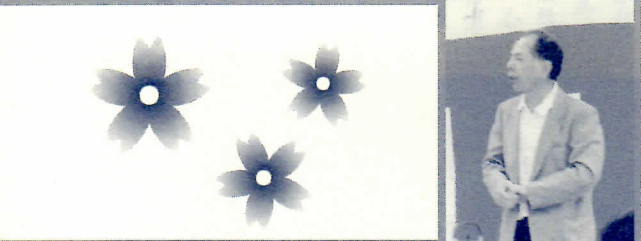




おちほ

第52号 平成17年6月20日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一



開寮記念日 おちほは55歳

午前中は氏神祭。午後は食堂にて開寮記念日ということで、昼食会を行いました。食堂は、落穂寮寮生さん五十人の顔写真の風船が飾られ、寮生さんは自分の顔の風船を探しておられました。

寮長のあいさつの後、永年勤続表彰式が行なわれ(保母は五年、指導員は十年)、今年には六年目を迎えた女子職員が表彰状と花束(担当寮生さんが手渡されました)が贈られました。

開寮記念日という事もあり、昼食のメニューも豪華!かき揚げ丼、茶碗むし、若竹煮、菜の花のそぼろあえ、更にデザートにはヨーグルトムースと盛り沢山でした。

寮生さんも職員もおいしく頂きました。お炊事の方々、いつもありがとうございます。

今年で落穂寮は開寮して五十五年目を迎えました。児童施設から成人施設への転換、そのための建物の新築など、様々な出来事がありました。福祉施策に於いても、契約制、応益制など、大変な時期を迎えようとしています。これから六十年、七十年を迎えるのですが、寮生さんが幸せな生活を過ごせる為に、職員一同、頑張っていきたいと思われました。

競争原理のツツケ

寮長 山下陽一

鉄道事故

二〇〇五年四月二十五日午前九時過ぎ、月曜の朝の通勤ラッシュが一段落したころJR福知山線尼崎駅近くで列車の脱線転覆の事故が発生、一〇七人の方々が亡くなり五四〇人の人たちが負傷しました。

この事故が発生した当日、脱線した快速電車に乗り合わせていた運転士が救助活動をしないうで出勤したこと、事故当日ボーリング大会、ゴルフコンペ、慰安旅行などを催したことなどについて、JR職員の不適切な行動に被害者をはじめ多方面から批判の声が上がり、世間から厳しい非難にさらされました。不適切な行動が明らかになるその都度に「情けない」「残念」を繰り返し、頭を下げっぱなしのJR幹部職員が報道されておりましたが、この事故に関連して識者はJRの企業体質を厳しく追及しています。

私たちの仕事は鉄道輸送サービスを提供しているわけではありませんが、福祉サービスの提供者として問題点を共有しなければならぬことを多く含んでいるように思えます。

「塩狩峠」

三浦綾子の作品の中に「塩狩峠」という小説があります。この小説は明治四二年に実際に起こった事故を素材にしたものですが、当時の殉職した鉄道員について感動深い印象を与えています。

塩狩峠を越える列車は先頭と最後尾に機関車がつき客車を挟むようにして峠越えをするのですが、事故当日は先頭の機関車のみでした。あえぎながら峠を越えようとしたとき、最後尾の客車の継手はずれ乗客を乗せたまま下り始めました。それに乗り合わせていた鉄道員はブレーキ操作を試みるのですが、下がる車輛をとめることができず、下がる線路めがけて飛び降り自分の身体を下敷きにして車輛に歯止めをかけ乗客全員を救ったというものです。

三浦綾子は深い信仰をもった方として、「人には命をかけて守らなければならぬことがある」ことをこの小説のテーマとしたものだと思います。

競争原理のつけ

私的立場をさておく鉄道員にまつわる話はたくさん挙げることができます。現在でも孫子三代に渡る鉄道員の「誇り」などよく見聞しますが、今日のJRの企業体質は、創設以来鉄道を

培ってきた「人と物」の輸送の「伝統」を現代的なものへと脱皮できなかつたのはなぜか、興味のあるところです。

JR幹部による営業スローガンの最初に「稼ぐ！」を挙げた訓示がなされていたという報道がありました。加えて秒単位の時刻厳守の運行は世界的に見ても異例だといわれています。特に福知山線は私鉄との競争が激しく、五分六分が企業収益の分かれ目ということも報道され、その厳しさに都会から離れて生活しているわたしにとって実感を伴わなく啞然とします。

立ち返り見て、私たちの福祉の現場にも競争原理が持ち込まれていきます。事業所として生き残りたければ「稼げ！」、まさにJRの至上命題そのものです。そのことが乱立する福祉の事業所を淘汰し、サービスの質は向上、結果的に豊かな社会を保障するものだという経済理論です。

しかしながら、人に福祉を提供するような仕事の場合、自動車や電器製品を生産する製造業と同じくする競争原理による経済理論は、この鉄道事故でその破綻を証明した一つの証拠ではないかと思われてなりません。

輸送であれ、流通であれ、まして福祉であれ、人びとにサービスを提供する事業にとって「サービス提供↓競争原理↓経済の活性化↓豊かな社会」という構図は、結果として大きな負債(つ

け)を社会にもたらすことになったのではないかと、そう考えます。

克服のでだて

極めて複雑で巨大な社会構造に内在している共通の問題点を捉える観点が求められるのは今回が初めてではありません。巨大な社会システム全般について一部の人間が精通することは極めて困難ですし、まして内部からその全体像は見えないでしょう。ではそれを克服する手立てはあるのか、という問題となります。わたしは次の二点が考えられるのではないかと思います。

まず第一点として、あり様を見極めるには、少なくとも二つ以上の立場の異なった視点が必要ではないか。例えるなら、X軸・Y軸・Z軸上三方向のどこに位置しているか、の視点から全体像を把握できるのではないかと。

他の一点は、それぞれの持ち場に直接関係する人の「自覚」を待つ以外にないのではないかと。

事故原因について物理的な原因究明はこれから精密に行なわれるでしょう。しかし実態の本質に触れることをますます困難にしている今日、以上の二点は、非常に困難なことに属することかも知れませんが、このことが長いトンネルの出口を知らせる目印になるのではないかと思います。

(二〇〇五・五・一〇)

ふくむ昔

齋藤のおばあちゃんの子どもたち

理事長 増田正司

落穂寮が児童施設の、入寮している児童を通常親しみをこめて「子どもたち」と我が子のように

呼んでいた時代（昭和30〜40年）、初代寮長齋藤謙蔵（用花）の死去後、亡夫の遺志を継ぎ二代目寮長となった、齋藤ちかおばあちゃん（当時、寮内では「おばあちゃん」と呼んでいた）は若い頃女子神学校を卒業し、渡米して社会福祉事業を研鑽し帰朝後神学校で教鞭をとり、多くの子弟の育成に尽力し、関西（特に阪神地区）の社会事業の向上に尽くされた多くの方々を養成された。常に優しくおだやかな思いやりのお人柄が、多くの人に慕われ深くまた永い交わりが終生続いた。

おばあちゃんの書き残したもののことから、子どもたちとの交流のひとこまを紹介し、在りし日の面影に触れてみよう。

ゆたか君が、「ば、ほくおばあちゃんがすき、コレやる たべ」といって「のりまきあられ」をつくれた。それをくれた手は真っ黒で泥でよごれた手である。「おばあちゃん早ようたべ」私は目をつぶって、あられをカリッと噛んだら胸が熱く涙がにじみでた。私はゆたかちゃんの汗の手をにぎっていた。

保母さん（昔の呼び方）の退職

今日去っていくたかださんが、今朝すみこちゃんの寝巻きを洗う時、もうこれであの子の寝巻きを洗ってやるのもおしまいだと思うと、泣けてたまらなかつたとの話。聞いて私は本当にこうした手のかかる子の日夜の苦勞にも自ずから愛情が湧き親が子に別れるような気持ちになつて泣き泣き去つて行く保母さんに私は合掌する。

その保母さんを眺めてみよちゃんが「先生うちがすみちゃんの世話を先生に代わつてしてあげる、先生うち何でもするし」とやさしくたかださんに言うてくれたとのこともあり、みよこもそんなに立派に人間的な成長をしてくれたかと、今更のように感謝する。

いつも暖かい眼差しと暖かい手をさしのべ相手を包んでくれる慈愛の深さを感じます。この慈愛をもとめておばあちゃんをたくさんの人が訪ねてきました。落穂寮の生活が家庭の温さに包まれて、なごやかに送れる中心に、いつもおばあちゃんがおられたからと、あらためて感謝します。

(17・5・10)

ふくむ昔

今年三月一日に、新しく落穂寮を利用される方が来られました。

『中村 淳』さんです。

新しくと言っても、淳さんは平成四年四月から十年八月までの間この落穂寮が児童施設の時に利用されていたのです

が、成人施設への転換時に利用年齢に達しておられなかった為、他の児童施設を利用してもらう事になったのです。

しかし、七年経っての今年、再び落穂寮を利用される事になりました。

入寮当時小学部二年生で身長は百三十二センチ。体重は二十九キロだった淳さんも、現在身長百七十七センチ、体重六十キロと全くの別人と言っている程の成長ぶり。一方、受け



入れ側も本人を知る職員は数名で、直接関わる職員ではたった一人、それも淳さんが小学部五年生の時までしか関わっていません。方と云えるのではないのでしょうか。

現在二十一歳という落穂寮では

一番若い利用者であつて、食欲旺盛でとてもよく動きまわられ、音楽が大好きな淳さんです。

これから寮生のみなさんともども、よろしくおねがいします。

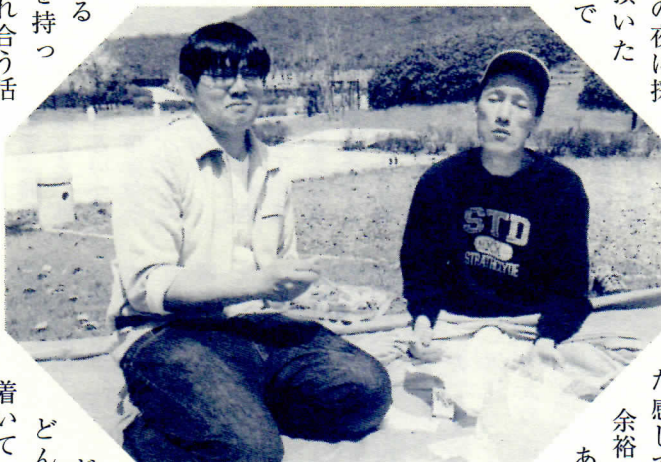


花園大学の社会福祉学科を卒業し、四月より落穂寮の男子棟職員としてお世話になっています、**荒木政彦**と申します。

卒業式直後に大学の就職課から紹介を頂き、その五日後に面接を受け、翌日の夜に採用の通知を頂いたという、自分でも信じられないような経緯を経て、この場に居させて頂いています。

私には軽度の情緒障害を持った妹がおり、大学時代には知的障害をはじめとする様々な障害を持つた子どもと触れ合う活動に打ち込んだので、これも何かの縁なのだと思います、喜び勇んで就職を決意しました。

大学のサークル活動とは勝手も違い、何もかもが新しいものや分からない事だらけで、一日



の流れや日課の内容などを覚えつつ、先輩方の動きや寮生さんたちとのコミュニケーションの取り方を学んでいくことで、一日一日が矢のような早さで過ぎていき、何とかついて行くのが精一杯といった感じでした。今はまだ

余裕のない状態ではありますが、しっかりと寮生さんと向き合

い、一人一人の事を考えて対応していきけるように精進していきたいと思ひます。

他にも色々な事もあり、課題も多いのですが、ひとまず、どんな時でも落ちて

着いていられるように心がけ、冷静に周りを見るようにするということを目標にして、頑張っていこうと思ひます。

こんな私ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。

初めまして、今年滋賀文化短期大学 人間福祉学科 児童福祉専攻を卒業し、四月から落穂寮の職員として働いています、竹田律子です。実家は京都府で、高校、大学と滋賀県にJ.R.に乗り通っていました。私が福祉関係の仕事に関心を抱いたきっかけは、母親がホームヘルパーの仕事をしており、福祉の仕事について話を聞いて私も誰かの役に立てる仕事がしたいと思っただけが始まりました。



福祉の仕事は責任が重く大変な仕事ではありませんが、自分の希望している職業につけて嬉しく思っています。四月に落穂寮にやってきてまだ先輩職員の方には迷惑ばかりかけておりますが、失敗を

つつ自分の対応や援助の仕方を見つけていこうと考えています。新しい生活の流れで不安や戸惑いはたくさんありますが、一日でも早く寮生さん、職員の方々、地域の方と信頼関係が築けたら良いなと思います。言葉でのコミュニケーションが難しい寮生さんとは毎日の生活を通して、時間をじっくりかけて、対応をしていきたいです。

私の目指す職員像は、自分の気持ちに左右されず、つねに相手の立場に立って物事を理解し、行動の出

来る職員です。持ち前の元氣と明るさで、たくさんの方々に答えていきたいと思っております。どうぞよろしく願っています。落穂寮の新年生竹田律子でした。

初めまして、シヨッピングと映画とスヌーピーが大好きな寺井啓恵です。花園大学社会福祉学科を卒業し、今年四月から落穂寮の男子棟で働いています。働きだした時は、どう動けばよいのか分からず仕事を覚える事で時間に追われる毎日でした。しかし少しずつ仕事にも慣れて今は、寮生さん達との関わりで余裕がもてるようになりました。関わる中では、寮生さんの試し行動や、寮生さんとタイミングが合わず、一人では対応できない事に悩む事がありました。寮生さんとは何かやり遂げた時や共感できた時には、その倍の喜びがあります。寮生さんには、その倍の喜びを感じて



だ時間がかかりそうですが、まずは寮生さん達をよく観察して、発見と学びを大切にしていきたいと思っています。又、職員は、常に全体の様子を見ながら動けるようにしていかなければなりません。寮生さんの少しの変化でも敏感に気づいていけるように、そして次の対応まで考えられるくらいのゆとりがもてるように心掛けていきたいです。そして、一年後には、私らしい援助ができるように他職員の方々を参考に励んでいます。

一人の人が生きていく中で関わってゆくのは限られた人です。その一人として寮生さんや職員の方々としつかり向き合っていきたいです。頑張りますので、どうぞよろしく願います。

『お花見遠足』



今年のお花見は四月十七日。行き先は昨年と同じく桜の里墓地公園でした。年度始めのこの時期は帰省期間が絡んだり、職員の入れ代わりで少しバタバタしているため、桜の花が一番綺麗な時にはお花見に行けない；そんな少々心寂しい事情もあるのですが、それでも毎年、美味しいお弁当を食べながらゆっくりと楽しいひと時が過ごせる時間として、落穂寮では大切にできています。

当日はとても良いお天気で、絶好のお花見日和となりました。公園まで歩いて行くAグループ・途中まで車で行き、そこから公園まで歩くBグループ・公園入口まで車で行くCグループの3つに別れての出発となりました。ここでAグループのお話を少し；☆落穂寮から公園までは片道九キロ!! 休憩を狭みはしますが、ほぼ三時間歩き続けるといって、なんとも過酷な道のりとなりました。お弁当に辿り着くまで、なんてなんて

遠いのでしょうか。途中、橋を目の前に「アーツ!!」と恐怖の大絶叫をされた寮生さん、落ちていたゴミが気になって仕方なかった寮生さん。そんなこんな色々ありますがAグループの寮生さんはもちろん、Bグループ、Cグループの寮生さんも無事、公園へ到着。そしてお待ちかねのお弁当タイムが始まりました。今年のお弁当は、落穂寮のお炊事特製『お花見弁当』。綺麗に彩られたお弁当も良いですが、今回の様なお手製感溢れたお弁当は、心が自然とホクホクしてきます。お味の方は；このページに溢れた寮生さんの◎ニコニコ写真◎を見ていただければ、一目瞭然なのではないでしょうか？

お花見は年度始めの行事、第一号です。ポカポカ陽気の中、たくさん笑顔に囲まれながら、ゆっくりと美味しいお弁当を食べていると「今年も一年、楽しく仕事が出来るんだらうなあ。」と確信せずにはいられなかつた私です。



「桜満開！
お腹いっぱい!!
体力限界！」

毎年当日の天候にドキドキさせられるお花見遠足。今年は四月十七日に晴天、炎天の下、行われました。女子棟の行き先は、兩山文化運動公園でした。寮から公園まで歩く班、途中までバスの班に分かれて出発しました。最初は普段の歩行と違い、遠足ということで足取りも軽く歩いておられたのですが、公園入り口の門で待ち構えていたのは長く、そして急な坂道！その現実を目の当りにしたみなさんの足取りは言うまでもありません。しかし、着いたら



▲手作り弁当、美味しいな♪

美味しいお弁当が待っている！と力をふりしぼり、目的地へ到着。さあ、いよいよお弁当です。今年はお炊事のみなさんが作って下さった、心のこもった手作り弁当でした。青空の下で食べるお弁当は、本当に美味しかったです。が、近くではパーベキューをしているグループがあり、お肉の匂いにフラフラ…と歩いて行かれる寮生さんもおられました。帰りは途中で休憩をはさみながら歩きました。午後の日射しは本当に強く、暑さと闘いながら歩き、無事帰寮しました。暑い中の遠足でしたが、みなさんお疲れ様でした。



◀桜満開



♪いの音なめ♪

音楽というのは、みんなの心を引きつける力があります。

女子棟にも以前からエレクトーンがあったのですが、かなり古くなっていたので音が出ず棟の中で忘れられている存在でした。

しかし、昨年の途中にまだ使えるエレクトーンをもらう事ができました。すると、職員も棟内で弾くようになり、今となっては弾く事が出来る寮生さんが気分転換やちよつとした楽しみとして、エレクトーンが活用されています。



ホールにて誰かが弾き始めると自然にみんなが集まり始めて歌えなもの、明るい音や音楽を楽しまれています。

また、自分で弾く事も楽しまれています。音楽が聴きたいと思われると自らエレクトーンの蓋を開けて、「弾いて！」と言わんばかりに横で待っていたりと、自分の要求を出して来られる姿も見えて来ました。

楽しみと表現の方法といろいろな部分で寮生さんに刺激を与えているエレクトーン。これからも女子棟で活躍し続けてもらいたいと思います。

氏神まつり

今年の五月一日も私達落穂寮、お隣りの一表寮さん、近江学園さんとで氏神まつりを行いました。当日は朝からあいにくの曇り空。しかも吹く風も怪しげで、どうも雨の降りそうな雰囲気……それでも予定の出発時間には寮を出ることができました。さて今年の落穂寮の出しものは写真を見ていただければ分かりますが、まずは今年生誕50周年のミツフイー。目が何とも可愛らしいです。そして問題はもう一体の方。胸には「OCHITHO」の文字があります。……? 製作者によると「オチホク」と名付けられているそうです



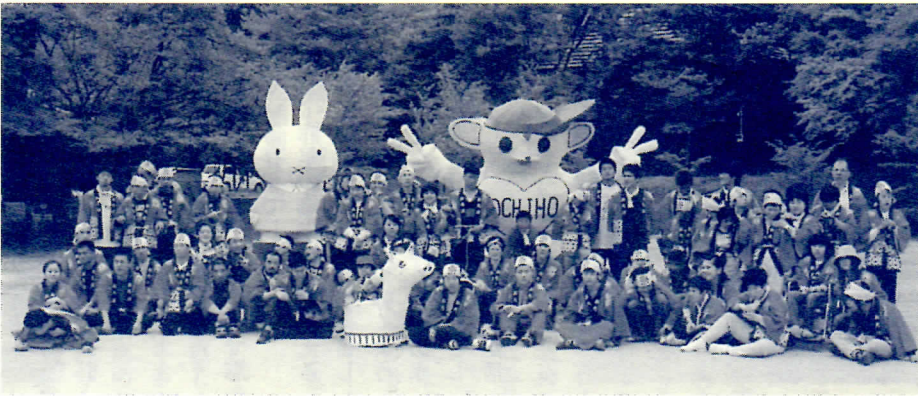
ワッショイ!!ワッショイ!!



ジュースでおつかれさま

が、これとよく似たキャラクターをびわ湖放送のテレビ番組で見たような覚えが……。まあとりあえずは「オチホくん」ということにしておきましょう。さて落穂寮以外からは、スパイダーマン、ゴジラなどのおみこしが次々と登場、にぎやかに東寺グラウンドへ出発!ハッピを着込んだ寮生さん達もすっかりお祭りムードで「わっしょい、わっしょい」と元気なかけ声。それぞれおみこしをかついだり、引っぱったりしながら坂道を頑張って登っていきましました。この時は沿道の皆さんにも温かい声援をいただきありがとうございます。長い坂道を登り東寺グラウンドへ到着。そこで各施設のおみこし紹介。その並んだ様子はなかなか壮観で、寮生さんの目もとても興味深そうなものでした。その後はみんなジュースを飲んで寮まで再び来た道を。そして寮についた途端にパラ

ラと雨が。五月にしては肌寒い一日でしたが、何とか無事に今年も氏神まつりを行うことができました。さて、来年はどんなおみこしが登場するのでしょうか?



泉

▽卯田正信さんが、今年四月に他界されました。

この広報「おちほ」が発行されて、五十一号になりますが、当初は年一回出されるかどうかというものでした。しかしそれでは意味がないと十九号から年三回の発行を目標に取り組みました。地域の方や関係機関など沢山の方に見てもらいたいという思いから、見やすい紙面、読みたくなる内容にするにはどうすればいいのか悩み、出版業の卯田正信氏を尋ねたところ、紙の素材からインクの色まで数多くの助言を頂きました。現在の広報紙があるのも卯田さんの熱い想いのこもった助言の賜物と感謝しております。ありがとうございます。

この紙面をおかりして、心から御冥福をお祈り致します。

木言

気づくひとと、気づかないひと
 のちがいは、
 気にしているか、していないか
 のちがいは、
 意識しているか、していないか
 のちがいは、
 考えているのか、いないのか
 のちがいは、
 大事なことは、「想い」をもつ
 こと。